

港湾振興便り



2019. 1

第140号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ

— 平成最後の年を突くもの —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(元新潟市長) 篠田 昭 ～

2 トピック

- 第9回「北海道みなとオアシス活性化協議会」を開催

(北海道みなとオアシス活性化協議会)

- 「第47回海洋教育フォーラム 海のことをもっと知ろう！」の開催について

(久慈市 企業立地港湾部 企業立地港湾課)

- 外貿コンテナ定期航路(中国航路)が新たに開設されました

(宮城県 土木部 港湾課)

- アマモに東京湾再生のメッセージを込めて

(関東地方整備局 港湾空港部)

- 地域と連携！「第3回HAT神戸防災訓練」に参加しました

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

- 神戸港みなと見学を開催しました

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

- 愛媛大学工学部3回生を対象に、現場見学会を実施しました

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

- 西条市内の小学校2校を対象に、現場見学会を実施しました

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

- 佐世保港浦頭地区でジャケット据付を開始

～地元関係者及び報道関係者を対象に見学会を開催しました～

(九州地方整備局 長崎港湾・空港整備事務所)

- 中城湾港にクルーズ船「飛鳥Ⅱ」が発寄港！

(沖縄総合事務局 港湾計画課)

●平良港高校生工事現場見学会の開催について

(沖縄総合事務局 平良港湾事務所)

:

1 ポートエッセイ

— 平成最後の年を実りあるものに —

～日本港湾振興団体連合会会長(元新潟市長) 篠田 昭～

:

平成最後の年が明けました。皆さん、新年おめでとうございます。本年が皆さんにとって実りある年となり、それぞれの港湾から地域の元気が引き出されるような年になることを祈っています。今年もよろしくお祈いします。
(新潟の元旦は開港150周年記念日)

新潟市の年明けは、例年の除夜の鐘のほかに、にぎやかな花火で彩られた。今年の元旦は、新潟港が世界に開かれて150周年の記念日に当たり、それを祝う花火で新潟の年明けがスタートした。

ご承知のように江戸末期、安政の5か国条約(1858年)で徳川幕府は5つの港を開くことを米英仏などに約束した。長崎に次いで函館、神奈川(横浜)が相次いで開港したが、兵庫(神戸)と新潟は地域情勢や港の機能性の問題などで開港が遅れた。特に河口港の新潟は当時、信濃川の土砂が堆積して水深が浅いことが問題視され、佐渡の夷湊(両津港)を補助港とすることで諸外国の了承を得た。その後も戊辰戦争の影響などで開港がさらに遅れていた。

(新潟の近代化に影響)

港の状況が悪かったことと、戊辰戦争で地域が疲弊した影響で新潟港の国際貿易は振るわず、進出した領事館も相次いで撤退した。そんな中でもドイツ商人や英国人医師らは10年前後滞在し、新潟の近代化に多方面で影響を与えた。開港当時の運上所(税関)が残っているのは新潟だけであり、イタリア人が開いたレストランはホテルイタリア軒として今も健在だ。23日には開港150周年の記念式典が開催される。是非この機会に新潟を訪れ、開港ゆかりの地をご覧になってほしい。

(波乱の予感乗り越え、活力ある年に)

さて、新年はさまざまなメディアで今年の景気予測などが流れている。概して厳しい見方が多いようだ。元号が変わることはともかく、統一地方選と参院選が12年に1度、同じ年に行われ、10月には消費増税が控えている。このため、波乱含みの年と見る向きが多い。年明けの東証相場はアップルショックもあり2万円割れでスタートし、熊本では震度6弱の地震も発生した。米中の経済戦争も気がかりだ。

(活性化へ知恵と力の結集を)

一方では、来年の東京オリンピック・パラリンピックが控えており、外国人旅行客の増加も続いている。新潟では台湾便の増便もあって、中国語が街のあちこちで聞かれるようになった。新潟港ではクルーズ船の予約が前年を大きく上回っている。さらに新潟県産米が中国への輸出が解禁されたことも明るい材料だ。新潟の米を皮切りに、今年はさらに多くの地域の米や農産品・食料が中国に輸出可能になるよう期待している。

世の中の流れが速いだけに、今年はさらに団結を固め、情報を共有化していきたい。それぞれの地域で港湾が活性化の起爆剤となるよう、知恵と力の結集をお願いする。

:

2 トピック

*:**

●第9回「北海道みなとオアシス活性化協議会」を開催

(北海道みなとオアシス活性化協議会)

第9回「北海道みなとオアシス活性化協議会」を、12月4日(火)に開催しました。

本協議会は、「みなとオアシス」相互の情報交換と、「みなとオアシス」による地域の賑わい創出に向けた取り組みを検討すること等を目的とした会であり、平成23年度に設置されて以降、北海道で登録されている「みなとオアシス」運営協議会員等の関係団体が集い、毎年1回開催されています。

今年度の協議会では、事務局より、全国の「みなとオアシス」に関する話題が提供された後、各運営協議会から「みなとオアシス」での活動状況について報告がありました。

また、今年度は、「Sea級グルメ全国大会」が「みなとオアシスもんべつ」(北海道紋別市)で開催されたことから、これの結果についてまとめた資料を基に、皆で意見交換を行いました。

本協議会を通じ、みなとオアシスを中心とした、更なる地域の活性化が図られることが期待されます。



「第9回北海道みなとオアシス活性化協議会」の様子



意見交換で発言される
片石 温美 中央大学研究開発機構教授(客員)

●「第47回海洋教育フォーラム 海のことをもっと知ろう!」の開催について

(久慈市 企業立地港湾部 企業立地港湾課)

平成30年11月22日に岩手県久慈市内において、「第47回海洋教育フォーラム 海のことをもっと知ろう!」が開催され、200余名もの方々にご参加いただきました。

岩手県立久慈東高等学校の生徒による司会のもと、「北三陸の海における未利用資源の探求」をテーマに京都大学大学院経済学研究科 荒川忠一特任教授による講演『洋上風力の最新の内外事情:「黒船はやってくる?』』、東京海洋大学 工藤貴史准教授による講演『海を活かして生きるー「資源」から考える地域振興ー』のほか、生徒による研究発表『久慈のギンポを宝にできるか!?2年目～ダイナンギンポの価値創造に関する研究～』が行われました。プログラムの最後には来場者を交えたパネルディスカッションが行われ、今後の海洋資源の利活用や地域振興に向けて意見交換されました。



久慈東高等学校の生徒による研究発表



パネルディスカッション

●外貿コンテナ定期航路(中国航路)が新たに開設されました

(宮城県 土木部 港湾課)

平成30年12月4日(火)、仙台塩釜港仙台港区と上海などの中国各港をダイレクトに結ぶコンテナ航路が新設され、第1船が高砂ふ頭に入港しました。新航路の開設により、仙台港区の外貿コンテナ定期航路は全10航路となり、平成2年のコンテナ定期航路開設以来、最多の航路数となりました。

当日は、宮城県、仙台市、仙台商工会議所など官民で組織する仙台国際貿易港整備利用促進協議会主催による歓迎セレモニーを開催し、コンテナ船運航船社のSITCコンテナラインズ関係者や船舶代理店の三陸運輸(株)などに御出席いただきました。

本航路は仙台港区と中国各港を結ぶ航路で、本県をはじめ東北各県に立地する企業にとって中国との輸出入の利便性が更に向上することが期待されます。



入港船舶「SITC TOYOHASHI」



歓迎セレモニー記念写真

●アマモに東京湾再生のメッセージを込めて

(関東地方整備局 港湾空港部)

12月21日(金)、サンタクロースに扮した神奈川県横浜市立金沢小学校の児童達から関東地方整備局に、アマモの種が手渡されました。

同小学校は、横浜市金沢区でアマモを増やす活動をしている「金沢八景―東京湾アマモ場再生会議」とともに、野鳥海岸や海の公園などでのアマモ場の再生活動に熱心に取り組んでおり、「自分達で採取したアマモの種で東京湾を海の生き物でいっぱいにして欲しい」との願いを込め、平成19年から毎年アマモメッセンジャー(アマモに東京湾再生の願いを込める者)として、関東地方整備局にアマモの種を届けていただき、今年で12回目となります。

アマモ場は沿岸の浅瀬に分布しており、「海のゆりかご」とも呼ばれ、魚類などの産卵場、成育場として重要な役割を果たしています。また、平成21年に設立された国連環境計画(UNEP)は、アマモなどの海洋生物に吸収される炭素を「ブルーカーボン」と命名し、温暖化対策の面からも注目されています。

関東地方整備局では、アマモ場の再生活動に取り組む児童達に感謝するとともに、引き続き「世界に誇る東京湾」の再生活動の輪を大きく育てて参ります。



届けられたアマモの種



集合写真

●地域と連携！「第3回HAT神戸防災訓練」に参加しました

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

平成30年10月27日(土)、「第3回HAT神戸防災訓練(ALL HAT 2018)」が人と防災未来センター(神戸市中央区脇浜海岸通)周辺で実施されました。

「HAT神戸」のHATとは「Happy Active Town」の頭文字を組み合わせたもので、公募により命名されました。臨海部工業地(川崎製鉄、神戸製鋼所等)の遊休化等に伴う土地利用転換を図った震災復興のシンボルプロジェクトの一つです。

平成10(1998)年に供用が開始され、住居、商業施設に加え神戸赤十字病院、人と防災未来センター、JICA関西、国際健康開発センター、兵庫県立美術館などが立地しています。

訓練は、災害への備えを地域が一体となって進めようと、地震から身を守るシェイクアウト及び安否確認訓練にはじまり、ビル屋上でヘリ救助実演の消防デモンストレーションや住民による豚汁の炊き出し訓練が行われたほか「減災チャレンジ！体験ラリー」として地震体験車を使った震度7の体験や心肺蘇生とAEDの使い方を学ぶなど12の体験プログラムが用意され、参加者はプログラムから一定数のスタンプを集め最終的に景品交換を行いました。

当事務所は、当該体験プログラムのうち「海洋環境整備船クリーンはりまの船内見学」及び「乗船体験 港湾業務艇いずみで行く神戸築港資料館見学ツアー」を行いました。

「クリーンはりま」の船内見学では、352名が来船し、海洋環境事業の役割やごみの回収方法などについて学んで頂きました。



海洋環境整備船クリーンはりまの船内見学の様子

また、港湾業務艇「いずみ」で行く「神戸築港資料館」見学ツアーは、20名×3回の訓練会場から事務所までの片道10分足らずのミニクルーズ体験と事務所に隣接する神戸築港資料館「ピアしっくす」の見学を通じて、短時間ではありましたが神戸港の歴史や役割について学んで頂きました。



乗船体験港湾業務艇いずみで行く
神戸築港資料館見学ツアーの様子



神戸築港資料館「ピアしっくす」見学の様子

事務所としましては、引き続き次回の訓練に参加し、地域と連携していきたいと考えています。

●神戸港みなと見学を開催しました

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

平成30年11月12、26日と二日間に分け、神戸市内の小学4年生51名の児童のみなさんが社会科の校外学習として神戸港みなと見学を行いました。

港湾業務艇「いずみ」に乗船し、ポートアイランドを一周しました。コンテナふ頭ではガントリークレーンや様々な種類のコンテナを見ることができました。丁度、飛鳥Ⅱやセレブレティミレニアムといったクルーズ船が神戸港に寄港していたため、クルーズ船の大きさを間近に感じることができ感動されていました。また、神戸港築港資料館「ピアしっくす」にて、港の役割や神戸港の歴史などを学習しました。後日感想文をいただきました。



クイズを行いました



港の概要について学習中…



いずみに乗って出発！

●愛媛大学工学部3回生を対象に、現場見学会を実施しました

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

平成30年12月5日に、当事務所と愛媛大学が連携し、港湾整備に関する現場見学会を実施しました。本見学会の目的は、将来を担う建設技術者の育成支援を行うことであり、「みなと」の役割を理解し、直接現場を見学することで見識を広げてもらえるようにとの思いから開催したものです。

大学生からは、「船舶の入港スケジュール管理はどうしているのか」「松山港の30年後の整備計画はどうなっているのか」など多くの質問があり、港湾整備に強い関心を寄せてくれているようでした。



会議室にて整備概要を説明



岸壁の現場見学

●西条市内の小学校2校を対象に、現場見学会を実施しました

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

平成30年12月3日と12日に、当事務所が整備を進めている東予港にて現場見学会を実施しました。みなとで働く人々とみなとづくりの現場を直接見ることで、自分たちの暮らしとみなとの関わりを考え、みなとの仕事に親しみを感じ、理解してもらうことを目的としており、小学校の社会科授業の一環として実施したものです。

小学生からは、「大きな船を着けられる岸壁の整備はすごく大変だと思った」「フェリー内部は初めて見たが、広くて綺麗で驚いた」など多くの感想を聞くことができました。



会議室にて東予港事業概要の説明



フェリーの船内見学

●佐世保港浦頭地区でジャケット据付を開始

～地元関係者及び報道関係者を対象に見学会を開催しました～

(九州地方整備局 長崎港湾・空港整備事務所)

現在、佐世保港浦頭地区では、東アジアを周遊するクルーズ船の寄港増加に対応するため、16万トン級のクルーズ船が接岸出来る岸壁やターミナル等を国・佐世保市・カーニバル社(クルーズ船社)で連携し整備を行っています。

ここ佐世保港浦頭地区はハウステンボスや西海橋等の観光資源が近くにあり、供用を開始した際には多くの観光客が訪れ地域の活性化に大きく貢献します。

この工事で私たちは、ジャケット式と呼ばれる構造で岸壁の整備を行っており、今回一番の見所であるジャケットの据付に合わせて、地元関係者及び報道関係者を対象に見学会を開催しました。

見学会当日はあいにくの天気となりましたが、地元の方や市議会・県議会議員など合わせて約50名の方に集まって頂きました。

また、報道関係12社にも参加頂き、事業のアピールもバッチリです。

途中風の強い時間帯もありましたが、無事に据付を行うことが出来ました。

今後、市やカーニバル社の工事も始まりますが、関係機関と十分な調整を行いながら安全を第一に、2020年4月の供用開始に間に合うよう整備を進めていきます。



●中城湾港にクルーズ船「飛鳥Ⅱ」が初寄港！

(沖縄総合事務局 港湾計画課)

平成30年12月5日(水)に郵船クルーズが運航するクルーズ船「飛鳥Ⅱ」(50,142GT)が乗客約750名を載せて、中城湾港へ初寄港しました。

初寄港を歓迎して行われたセレモニーでは、主催者の中部広域市町村圏事務組合を代表して野国昌春北谷町長より小久江尚 船長へ記念楯が送られたのに続いて、名幸利積 北中城村議会議長から和田浩一郎 機関長へ地元特産品が贈呈されました。入港時には沖縄市立美東中学校吹奏楽部による演奏でセレモニーに花を添えました。また、出港時には地元高校の吹奏楽部による演奏が行われ、同船は最終目的地の横浜港へ向けて出港しました。

また、同日、中城湾港を活用した地域活性化及び同港へのクルーズ船の寄港促進を目的に「事業者向け中城湾港クルーズ船受入れセミナー」が開催され、「飛鳥Ⅱ」の船内見学や同事務組合のクルーズ戦略アドバイザー 吉川太朗 氏や沖縄総合事務局 辻本陽琢 港湾計画課長による講演が行われました。セミナーには中部広域圏内の事業者や行政職員約60名が参加し、クルーズ船やクルーズ市場に関する理解を深めました。



中城湾港へ初寄港した「飛鳥Ⅱ」



記念写真



沖縄市立美東中学校吹奏楽部による演奏お出迎え



地元高校の吹奏楽部による演奏でお見送り

